

## ◆◆◆熱中症予防情報

今年の夏は、8月に入ってから暑さが本格化しました。8月16日に熊谷（埼玉県）と多治見（岐阜県）で最高気温 40.9 度を記録し、最高気温の日本記録が 74 年ぶりに塗り替えられるなど（従来の記録は1933年7月25日山形の40.8度）、厳しい暑さが続いています。連日の猛暑の中、各地で多くの「熱中症」患者が発生し、連日マスコミでも取り上げられ、注意が呼びかけられています。

熱中症は、「気温が高く」「蒸し暑く」「風の弱い」ときに起こりやすく、これらの危険度を評価するために、WBGT (Wet-bulb Globe Temperature : 湿球黒球温度) が用いられます。WBGT

は、米陸軍で兵士のトレーニング時の健康管理のために Yaglou と Minard が提唱(1957年)した指数で、スポーツ環境下での健康管理、高温環境下での労働衛生管理の場面で、日本でも良く使われています。

当センターでは、(独) 国立環境研究所の委託を受け、新潟、東京、名古屋、大阪、広島及び福岡の全国 6 箇所で WBGT の観測を実施しております。この成果は、(独) 国立環境研究所が試験的に運用している「熱中症予防情報」の Web サイトで暑さ指数として提供されており、現在の気象条件から見た熱中症の危険度がすぐ分かるようになっています。

「熱中症」は、高温の環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温の調節機能が破綻し体温が著しく上昇することにより発生する病気で、以前は炭鉱などの厳しい労働環境下や、高温環境下での無理なトレーニングによる発生が良く知られていました。一方、近年の都市を中心とする夏の気温の上昇により、ふだんの生活の中でも熱中症の危険性が高まっており、その患者数は年々増加しています。

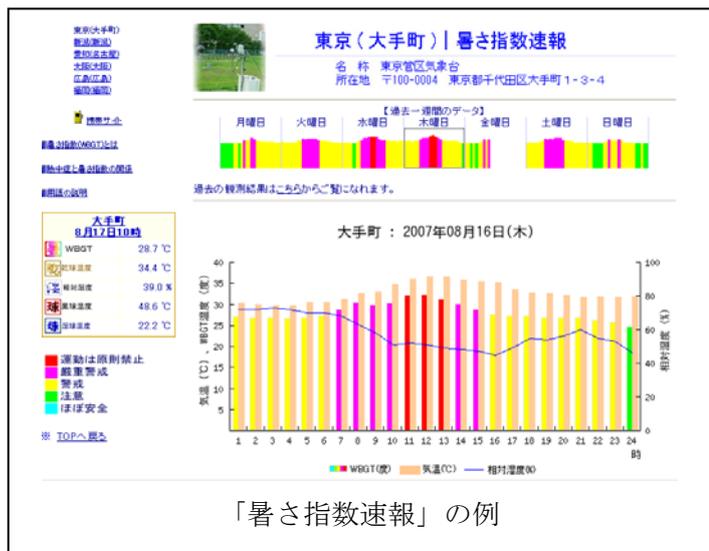
「熱中症」は、気象状況を把握し、正しい対策をとることで防ぐことが出来き、また、患者の周りの人々の配慮と迅速な応急処置で症状の重篤化を防ぐことができる病気です。「熱中症」に対する理解を深めるため、環境省は「熱中症保健指導マニュアル」を作成し、「熱中症」のメカニズム・症状・救急対処の方法などについて詳しく紹介しており、併せて、高齢者・児童向けなど対象を絞り込んだ情報も掲載されています。

「熱中症保健指導マニュアル」は、下記の Web サイトで閲覧、ダウンロードすることができますので、夏期の健康管理のために是非ご利用ください。

[http://www.env.go.jp/chemi/heat\\_stroke/manual.html](http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.html)



黒球温度計（福岡）



「暑さ指数速報」の例